

竜巻が来たら、たいへん・・・!

# 野積み放射性焼却灰、何とかして!

氏名	
住所	

要望項目  
除染で排出される放射能汚染土や、ゴミ焼却施設から排出される放射能汚染焼却灰の中間貯蔵施設および最終処分場を、国の責任で早急に確保して下さい。



みんなの笑顔のために  
**走る政治家**

**みわ由美** よしみ

私は昨年、放射能汚染の不安が広がるなか、約3000人の市民と共同で、市内公園の放射線量を約3000カ所測定し、「汚染マップ」でお知らせしました。自主的な測定や除染、市・国交渉を重ねるなかで、とうとう行政による除染をスタートさせました。全原発の40倍はあるという、風力や太陽光(熱)、地熱など、日本の豊かな自然エネルギーへの切りかえを、国の責任ですすめます。雇用も、自然エネルギーのほうが、原発よりはるかに可能性をもっています。

子どもたちに原発のないやさしい未来を



高齢者にもやさしい社会を



党と住民の懇談会で、松戸市のクリーンセンター(六実)の放射性焼却灰について不安の声が寄せられました。党市議の要請で、さっそく行政による現地調査と説明会が行われ、みわ由美前県議と党市議、自治会関係者が参加しました。敷地内の駐車場に野積みされた、焼却灰を詰めた袋は毎日毎日増え続け、国は「3年をメドに(仮置き場を)確保する」などと言っていますが、今年度内に一杯になってしまいます。



行政の説明会



深刻なのは、その管理状態です。実際ちかづいてみると直近で毎時4μシーベルト、1メートル離れても2~3μ、20メートル離れて0.32μ。国の安全基準は0.23μですので、長くそばにいると危険です。その場で改善を要求し、その後、近くの公園の利用者が近づかないよう、金網が設置されました。しかし、「竜巻が来たら飛び散って、それを吸いこんで内部被ばくしたらたいへん」という不安は消えません。



今年11月、みわ由美前県議は、日本共産党松戸市議団とともに、環境省と交渉し、「早急に、国が中間貯蔵施設とともに、最終処分場の確保に全力を尽くすよう強く求める」という要望書を手渡しました。交渉のなかで、みわ由美前県議は、野積みされた放射性焼却灰の写真を示して、対策を強く迫りました。(左写真)

松戸市内の「ゴミ焼却場」から排出される放射性焼却灰は、市クリーンセンター(六実)の敷地内に野積み状態で仮置きされ、もつすくあふれそつになつていきます。中間貯蔵施設や最終処分場の確保は国の責任です。日本共産党のみわ由美(党松戸市災害対策本部長)は、懇談会で住民の声を聞き、クリーンセンターの現地調査を行い、環境省に実情を訴え、要望書を手渡し、対策を強く迫りました。みなさんごいっしょに、国に対して声をあげましょう。

私たちががんばります

- 高橋たえ子 松戸市議会議員
- うつの史行 松戸市議会議員
- 伊藤よさちろう 松戸市議会議員
- 高木健 松戸市議会議員
- 山口正子 松戸市議会議員

ご連絡いただければ、受け取りに伺います。(047-349-1544)